

令和3年度 山口県学力定着状況確認問題の結果について【小学校】

下松市教育委員会

1 結果の公表 にあたって

令和3年度「山口県学力定着状況確認問題」（令和3年10月20日を基準日として実施）の結果についてお知らせします。

本調査は、小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象として、国語、算数・数学（小学校5年生は理科、中学校2年生は理科・英語も実施）の学力の状況や児童生徒の生活習慣、学習環境の状況を調査し、県内すべての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図ることを目的として実施しました。

今回の結果をもとにして、本市におきましても、学校と家庭・地域が連携・協働し、一体となった取組を推進してまいります。

2 教科に関する問題の結果について

【国語】 5年生・6年生ともに県平均正答率を上回っている。

【算数】 5年生・6年生ともに県平均正答率を上回っている。

【理科】 県平均正答率を上回っている。



→ どの教科も、県平均正答率を上回っています。一方で、記述式問題（考え方を書く、理由や方法を説明する等）や、思考力や判断力を要する問題（目的や意図を考えて答える、理由を明確にして答える、学んだことを活用して答える等）は、一定の成果は見られるものの低い正答率でした。授業等で各教科に応じて、考えたことを分かりやすく表現する力をどのように育成するかが課題となります。

◎（市平均正答率の高かった問題） ▲（市平均正答率の低かった問題）

国語

◎ 漢字を正しく読んだり書いたりすること（6年）

◎ 文の中における主語、述語をとらえること（5年、6年）

▲ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること（5年）

▲ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること（6年）



算数

◎ 乗法と減法の混合した整数の計算をすること（5年）

◎ 数を四捨五入して概数で表すこと（5年）

◎ 場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算すること（6年）

▲ 複合図形の面積を求める（5年）

▲ 面積と長さの関係を理解し、たてと横の長さを求める（5年）

▲ 基準量の違いによって、同じ割合でも表す大きさが異なることについて気づくこと（6年）



理科

◎ 水の流れと地面の傾きの関係を理解すること

▲ 植物がよく成長するための条件について学んだことを、他の場面に適用し、説明すること



3 課題の見られた問題例

国語 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題

【5年】

Aさんは、「目立たない仕事」についてくわしく調べたいと思っていたところ、インタビューで次の【地域の図書館のホームページ】を見つけました。【Aさんのノート②】の□ウの部分に入る文章を次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 本の修せん以外の「目立たない仕事」を一つ取り上げること。
- 【Aさんが調べた本の内容】と【地域の図書館のホームページ】の両方にのっている仕事を取り上げ、仕事の内容とその目的がわかるように書くこと。
- 二十字以上、四十字以内にまとめて書くこと。(以下省略)

※ 県平均正答率を下回り、30%に満たない正答率でした。

算数 基準量の違いによって、同じ割合でも表す大きさが異なることを説明する問題

【6年】

Bさんのお店では、500円で仕入れた商品に20%の利益を見込んで、値段を決めました。

Bさん： $500 \times (1 + 0.2) = 600$ で、値段は600円になります。

しかし、なかなか売れなかつたため、値段を600円から500円にもどすことになりました。

Cさん：20%増やしたから、もとにもどすために20%引きしたらしいですね。

Dさん：あれ、おかしいですね。20%引きしたのに、500円にもどりません。

20%引きしても500円にもどらないことを、何をもとにして考えたかが分かるように、式と言葉を使って説明しましょう。

※ 県平均正答率を下回り、10%に満たない正答率でした。

理科 植物がよく成長するための条件について説明する問題

【5年】

EさんとFさんは、発芽したインゲンマメを鉢に植えかえ、植物の成長に何が関係しているかを調べました。そして、次のこと気に気づきました。

Eさん：植物がよく成長するのに、「日光」は必要な条件だったよ。

Fさん：「肥料」も、よく成長するのに必要な条件だったね。

実験の終了後も、鉢に植えたインゲンマメを学校の広場で育て続けることにしました。学校には広場が3カ所あります。ア、イ、ウのどの広場で育てると、最もよく育つでしょうか。その理由をEさんFさんの言葉を使って説明しましょう。(学校の地図は省略)

※ 県平均正答率と同程度で、30%台の正答率でした。

4 今後の取組

★ 学 校

● 学校の組織的取組の強化

(教科・学年の枠を超えた研修の推進、学力向上プランの重点化等)

● 児童生徒の「学習力」の向上をめざす授業改善

(「キラリくだまつ授業づくり」の活用、誤答分析を生かした授業改善等)

● 校内研修の活性化と指導の充実

(「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善、「やまぐち学習支援プログラム」の活用、個に応じた補充学習等)

★ 家庭・地域

● 学習・生活習慣の確立

(「家庭学習の手引き」等の活用、家庭における生活習慣の見直し等)

● コミュニティ・スクールを生かした学習支援

(地域の人材を活用した授業や取組等)

★ 下松市教育委員会

● 「キラリくだまつ授業づくり」に基づいた授業改善の推進

● 課題と考えられる状況等の情報提供

● 学校訪問等による指導・助言

● 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりに関する指導・助言

● 下松市学習指導実践研究校の指定

● 下松市教育研究所における実践研究とその普及